

中期重点目標 (育成する力)	多様性を認め あたたくつながり合う力 主体的に 学級・学校づくりに関わる力	
数値指標 (本年度目標)	自分にはよいところがある。95% (とても 60%) 仲間にはよいところがある。95% (とても 70%) みんなで何かをするのは楽しい。95% (とても 70%) 進んで活動することができた。95% (とても 70%) 心を伝えるあいさつができた。80% (とても 60%)	まとめ評価 B

達成状況		
児童アンケート	自分には良いところがありますか。	肯定的回答 81% (とても 50%) ある 50% だいたいある 31% あまりない 11% ない 8% まとめ評価 C
	仲間には良いところがありますか。	肯定的回答 98% (とても 89%) 楽しい 89% まあまあ楽しい 9% あまり楽しくない 1% 楽しくない 1% まとめ評価 A
	みんなで何かをするのは楽しいですか。	肯定的回答 97% (とても 86%) 楽しい 86% まあまあ楽しい 11% あまり楽しくない 2% 楽しくない 1% まとめ評価 A
	進んで活動することができましたか。	肯定的回答 93% (とても 64%) できた 64% だいたいできた 29% あまりできなかった 5% できなかった 2% まとめ評価 C
	心を伝えるあいさつができましたか。	肯定的回答 90% (とても 62%) できた 62% だいたいできた 28% あまりできなかった 9% できなかった 1% まとめ評価 A

< 資料 >

取組状況		
教職員アンケート	学校行事・ポジティブ教育では、自他の良さを認め大切に活動を実施させる。	肯定的回答 100% (とても 67%) そう思う 67% だいたいそう思う 33% あまりそう思わない 0% 思わない 0%
	中・高学年が「わくわくタイム」を主体的に企画・運営する機会を設け、学年の枠をといた活動を充実させる。	肯定的回答 100% (とても 61%) そう思う 61% だいたいそう思う 39% あまりそう思わない 0% 思わない 0%
	委員会活動などを通し、児童の多様なアイデアを積極的に取り上げ実践していきなど、児童が学校運営に関わるように支援する。	肯定的回答 100% (とても 44%) そう思う 44% だいたいそう思う 56% あまりそう思わない 0% 思わない 0%

年間評価	総括（成果と課題）
	・ 6月5日からの1週間を「ポジティブ週間」とし、各学年の実態に応じて自分の強みを知る取り組みや個性の伸長について考える道徳の時間を設けた。また、学校行事を「ピア・サポート」の視点を取り入れた活動のよい機会と捉え、積極的に活用した。その結果、高学年が低学年のサポートをしたり、同学年同士で困っている友達を助け合ったりする姿が見られた。教職員は研修を受けたり授業を参観したりするなど、ポジティブ教育に対する理解をさらに深められるようにした。 ・ 児童会や各委員会がわくわくタイムや全校集会を行った。わくわくタイムは、計6回行い、学年関係なく声を掛け合ったり共に喜んだりして、楽しい時間を過ごした。高学年は、わくわくタイムでどのような活動をする楽しみながら自分たちのねらいに迫れるかを考え、工夫を凝らした活動を行った。 ・ 心を伝える挨拶ができる児童を目指し、児童主体の様々な活動を行った。生活委員会では「あいさつビンゴ」を行い、各学級では自分たちの挨拶について振り返る時間を設けた。1年生では「自分たちができる活動は何だろう」とアイデアを出し合い、挨拶運動を行った。自分たちの挨拶について考える機会を多くもつことができたため、心を伝える挨拶への実践意欲が高まってきている。
	改善点
	・ 自己肯定感を高め、他者への思いやりや高い人権意識を育むために、計画的・継続的にポジティブ教育を推進していく。自分や相手の強みについて理解を深めたり実感したりするため、ポジティブ週間を設ける。また、行事や日々の教育活動の中に、ピア・サポートを意識した活動を積極的に取り入れる。 ・ 来年度も引き続き児童主体のわくわくタイムや委員会活動を行っていく。高学年は委員会活動、1～4年生は学級活動を軸とし、全ての児童が進んで学級・学校運営に関わることができるように支援していく。 ・ 児童の挨拶に対する意識をさらに高め、相手に心が届く挨拶ができることを目指し、自分達の挨拶について考える機会を設ける。学級会で自分達で取り組めることを話し合い実践していく中で、挨拶のよさに気づき、継続して実践していきたいという意欲を高めたい。

【幸せな社会を創る力】

目標 多様性を認め あたたくつながり合う力

主体的に学級・学校づくりに関わる力主体的・協働的・創造的に課題を解決する力

①ポジティブ教育

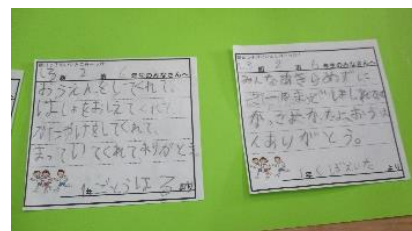
自分のよい所や強みに気付くことで、自己肯定感や自己効力感を高めたり、自他のよさを認め合える豊かな人間関係を形成したりすることをねらいとし、ポジティブ教育に取り組んだ。特に、6月5日から9日までを「ポジティブ週間」とし、全校で意識を高めた。わくわくタイムでは、児童会が中心となり「先生の強み」をクイズにして紹介した。強みについて理解を深めたり、誰にもよいところがあることに気付いたりするよい機会となった。道徳の時間には「個性の伸長」や「自分らしさを生かす」など、自分の強みについて考える学習を行った。お互いの強みを伝え合う活動では、「自分では気付かなかったよいところに気付くことができた」や「自分や友達のことをもっと大切にしようと思った」などの感想が聞かれ、自分や友達のよいところを再確認し認め合う姿が見られた。



【先生の強みクイズ】

②教育活動に取り入れたピア・サポート

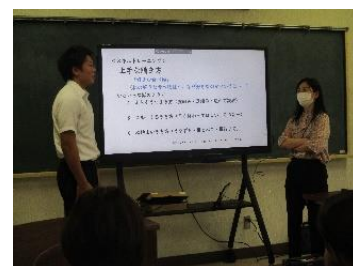
強みを生かして活動を進めたり、問題を解決したりする場として、特に学校行事を活用した。体育大会やマラソン大会では、縦割り班を活用した応援席の配置にし、異学年の交流が行えるようにした。高学年が低学年のサポートをしたり、同学年同士で困っている友達を助け合ったりする姿が見られた。学習後にはピア・サポートの視点から振り返りを行い、自分も相手を支えていることを実感できるようにした。



【ペア学年へメッセージを書く】

③ポジティブ教育の研修の充実

教職員の、ポジティブ教育についての理解をさらに深めるため、研修の機会を設けた。教育研究所の仲野先生を講師とし、ポジティブ教育の意義を確かめたり、演習を通して授業で実践することができる内容を学んだりした。また、心理学「ジョハリの窓」を取り上げた6年生の授業を教職員が参観し、意見交流会を行うことで、さらにポジティブ教育についての理解を深めた。研修を受けた教員からは、「授業の中で、自分の良いところに気づき、児童が生き生き活動している様子が見られた」や「難しいと思っていたけれど、どの学年でも実践できそうな内容がたくさんあった」などの感想が聞かれた。



【研修の様子】

実践例

⑤児童が主体的に企画・運営する「わくわくタイム」

児童会や各委員会が中心となり、児童が主体的に企画・運営を行う、縦割り班活動「わくわくタイム」を計6回行った。「みんなが笑顔になること」をめあてとした児童会主催の「スマイルバスケット」、学校中に食に関するクイズを貼り、縦割り班ごとにクイズを解いて歩く給食委員会主催の「給食三択クイズラリー」など、さまざまな委員会がわくわくタイムを行った。委員会ごとに、どんなことをねらいとするかを考え、楽しんで活動しながらそのねらいに迫ろうと、工夫を凝らす姿が見られた。



【じゃんけんゲーム】



【給食三択クイズラリー】



⑤学校生活への提案

児童が学校運営に主体的に関わることができるよう、委員会活動などで児童の多様なアイデアを積極的に取り上げ実践していけるように支援した。6年生は現在の朝日小学校の課題を見付け、改善するための手立てとして「日々の活動」と「わくわくタイム」の2点について話し合った。委員会の時間に活動案を提案し、委員会活動に児童のアイデアが生かされるようにした。また、後期委員会では、前期委員会活動内容でのよかった点、反省点を受け、よりよい学校作りを目指すには、後期にはどんな活動を進めたらよいか、改善点や新しい提案について話し合った。放送委員会では、前期、「放送ビンゴ」を提案、実施したが、「放送中も話している」「きっと同じ放送だろうと、聞いてくれないときがある」という反省点も出てきた。そこで後期には、「放送週間」を設け静かに聞くことに全校で組んだり、「放送聞き取りビンゴ」のルールをレベルアップさせたりするなどの活動を提案した。どの委員会の活動も、6年生のアイデアが実践となったもので、児童は生き生きと活動し、児童の委員会活動への主体性が高まった。



【委員会の提案を話し合う】

⑥全校で主体的に取り組む挨拶運動

相手に心を伝える挨拶ができる児童を目指し、全クラスで、学級会で挨拶について取り上げた。どうしたら明るい挨拶が溢れる学校になるのか、現状や自分たちでできる取り組みを話し合った。1年生では、呼び掛けカードを作ったり、休み時間に学校中を回って自ら挨拶をしたりと、明るい挨拶が溢れる学校作りに取り組んだ。高学年だけでなく、低学年も進んで活動し学校運営に関わることができ、自己有用感も育まれるよい機会となった。



【取り組みについて話し合い】



【挨拶運動～1年生～】

